

会員へのお知らせ

学会会員殿

子宮頸癌登録項目の追加について

日本産科婦人科学会婦人科腫瘍委員会では、子宮頸癌に対する低侵襲手術(腹腔鏡下手術/ロボット支援下手術)が従来の開腹術式に比して全生存率、無増悪生存率ともに有意に低いというランダム化第Ⅲ相試験の結果を受け、本邦における子宮頸癌に対する手術療法の現状をより詳細に把握し、治療成績に影響を与える因子を検討する必要があると判断しました。

これらの検討を行うために、従来の腫瘍登録項目に加えて、手術症例に関しては、調査期間を限定して下記の「特別調査実施項目」を設定いたしました。2019年1月1日の治療開始症例より追加項目の登録も行っていただくようお願いいたします。

【特別調査実施項目】

子宮摘出・子宮頸部摘出術式、術者・第一助手の専門医資格の有無、子宮把持方法、腫瘍細胞飛散対策、リンパ節回収・腔管切開方法、手術時間、出血量、輸血・術中臓器損傷の有無、頸管間質浸潤の深さ、傍子宮結合織浸潤・腔壁浸潤・脈管侵襲の有無、切除断端、摘出リンパ節個数、転移リンパ節個数、術後治療内容、再発の有無と再発部位

2019年6月1日

公益社団法人 日本産科婦人科学会

理事長 藤井 知行

婦人科腫瘍委員会

委員長 榎本 隆之

婦人科悪性腫瘍登録システムの充実に関する小委員会

委員長 永瀬 智
